

子育てで繋がるシェアハウス

平井 政行 (ひらい まさゆき)
明海大学 不動産学部 不動産学科

子育てで繋がるシェアハウス



建築データ

敷地面積: 330 m ²	建築面積: 224 m ²
延べ床面積: 726.5 m ²	
階高: 3.7m	建物の高さ: 16.3m
建築率: 64%	容積率: 222%
1階	
保育室: 6.5 m ²	1.9人 (子供1人=0.9 m ²)
区役所: 22 m ²	駐輪所: 16台
2階	
保育室: 21 m ²	4人
作業室: 23 m ²	16人
3階、4階	
リビング・キッチン: 53.9 m ²	洗濯室: 14.4 m ²
個室1, 8: 12.3 m ²	個室2, 7, 9: 11.9 m ²
個室3, 6: 18.2 m ²	個室4, 5: 18.4 m ²



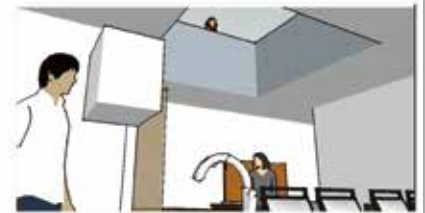
計画地周辺図



コンセプト図



シェアハウス入居者募集の広告イメージ図



リビングイメージ図



北側立面図

南側立面図

近年、待機児童が多い事が社会的な問題となっているが、量的な問題とは別に保育所の環境についても疑問に思っている。保育所は子供の安全を考えると閉鎖的な空間になりがちだが、子供の成長とは人との関わりで育む者であると考え。震災の影響などで、人との繋がりを大切に考える人達が増える中で、人との交流が出来る空間と自分の空間をもつ事が出来るシェアハウスが注目されているが、この仕組みが、保育所の閉鎖的な空間を変えるのに役立つと考えた。

保育所の上階にシェアハウスを設け、保育士や保育に興味がある人に入居してもらい、ボランティアやアルバイトで保育所を手伝ってもらう。保育士の時間の有効活用や人手不足の解決の助けになると考え「子育てで繋がるシェアハウス」を計画した。

講評

保育士や保育を志している人のためのシェアハウスと、保育所、地域の子育て中の母親たちが集う育児支援のスペース一つの建物にまとめた計画である。保育施設に入れない待機児童が増え、社会問題にもなっているが、行政が保育園等を増やしても保育士をなかなか確保できないという現実がある。保育士の資格があっても現場から離れてしまう人が多い事にもよるが、シェアハウスという住居形式に住むことで、人を育てる事に繋がるとの意図もあるとのこと。計画では、3つの機能は縦に積み、相互の建築的なつながりは少ないので、自然に関わりが生まれるような工夫があれば、もっと設計の意図が活かされたと思われる。また、設定した敷地が広くないこともあり、園庭など屋外のスペースや地域との干渉となるようなスペースがとれなかったことは残念である。「子育てで繋がる」という点では、働く親同士の繋がりや子育てを終えたシニア世代との繋がりもうまれるような計画であれば、もっと面白い建築になったと思う。「保育園とシェアハウス」という組み合わせは、もっと多様に発展できる可能性があり、次へのきっかけとなるテーマではないか。

(審査委員: 佐倉 桂)